

# Public Interest Incorporated Foundation for



## 地域と歩む世界自然遺産・知床

私たちはこの地で、自然との共生のための新しい思想・技術を創出し、  
その実現を担う専門家や研究者を育成する大学院に相当する  
高等教育機関の実現を目指しています。

私たちが目指す教育機関と人材育成の理念を多くの皆様にご理解いただき、  
ご支援を賜りますようお願いいたします。

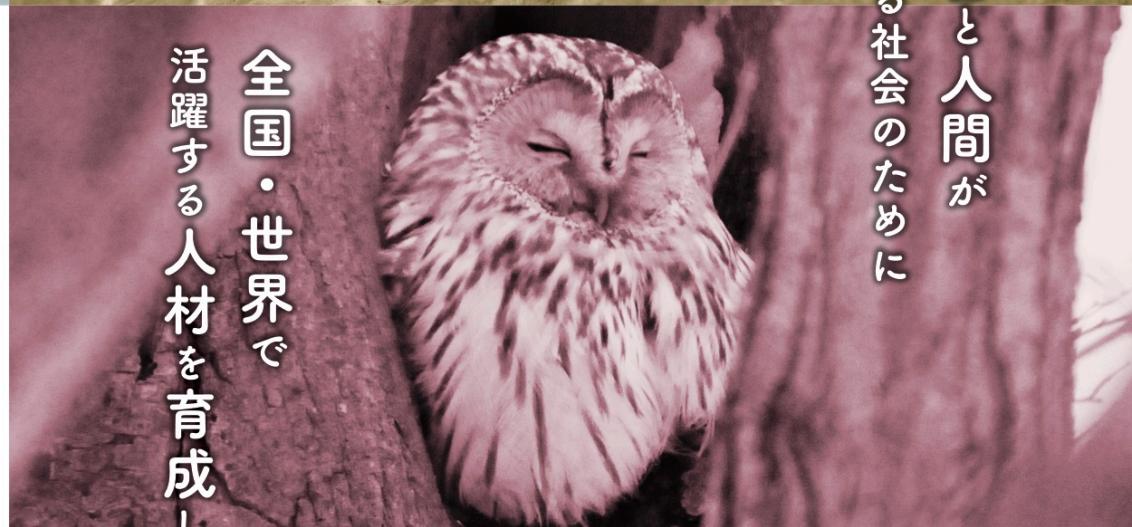
---

公益財団法人 知床自然大学院大学設立財団

〒099-4117 北海道斜里郡斜里町青葉町28-10 TEL 0152-26-7770 FAX 0152-26-7773  
E-mail ▶ [sizendaigaku@wine.plala.or.jp](mailto:sizendaigaku@wine.plala.or.jp) ◎HPもご覧ください ▶ <http://www.shiretoko-u.jp>

野生生物と人間が  
共存できる社会のために

全国・世界で  
活躍する人材を育成します



公益財団法人

知床自然大学院大学設立財団

Public Interest Incorporated Foundation for Shiretoko Institute of Wildlife Management

# Shiretoko Institute of Wildlife Management

# こんなとき どうしたらいいの？ 動物との共存

CASE

①

ある県庁所在地の地方都市。最近、イノシシの目撃が相次いでいます。郊外の農作物が荒らされるばかりでなく、住宅街で我が物顔でゴミをあさる姿も。街では出没するイノシシに餌をあげている人もいるとか、いないとか。

車との衝突事故も発生。このままでは、人間もイノシシも不幸になってしまふような気がします…。

CASE

②

風光明媚なる国立公園。シカが爆発的に増えて、植生に影響を与えています。公園内で咲く花、育つ草の種類が変わってきました。多くの木の皮もはげています。植生が変わると、地滑りなどの原因になることもあるそうです。

近くで暮らす住民もいるのに、この環境はどうなってしまうのでしょうか。

CASE

③

漁業がさかんなある小さな町。最近アザラシが漁網に入って魚を食べたり網を壊したりし、困った存在になっています。漁業被害は住民にとって死活問題。

駆除してほしいという要望がある一方で、絶滅危惧種のアザラシは守らなければという声も。町の中で意見が割れ対処法が定まらず、産業が成り立ちません。

## このような現実に対し

### さまざまな立場から 多様な意見 があります



人間の都合で  
野生動物を  
殺さないで！



関係ない  
よく  
わからない



対策したいが  
お金がない



絶滅危惧種を  
何とか  
守りたい



農漁業に  
被害が出る



子どもが  
心配だから  
何とかして！

- ◎ このような問題に取り組まなければ  
ならない自治体職員に専門知識がない…
- ◎ 野生生物の捕獲を担ってきたハンター  
(猟友会) の高齢化が著しい…

### その結果

- ▽ 適切でない対処、小手先だけの対処をして、根本的な解決に至らない
- ▽ 逆に自然環境に悪い影響を与えてしまう
- ▽ 地域の衰退も進む一方

## 全国にワイルドライフマネジャーが必要です！

- 野生生物や環境について専門知識と管理技術を持っている
- 各地域の実情をよく理解している
- 地域住民と対話を重ね、良好なコミュニケーションをとれる
- 適切な計画を立てて合意を形成し、それを実行できる…etc



What's  
Wildlife Manager?

ワイルドライフマネジャーとは…

野生生物保護管理の専門家。国や地方自治体の野生生物対策担当や、企業・団体などの環境マネジメント部門や環境教育部門、環境NGOやNPOの職員として働き、各地の実情にあった野生生物保護管理の問題解決を担う。さまざまな立場の人と合意を形成し、専門知識や技術に基づく適切な計画立案・実行し、人にとっても、野生生物にとっても、よりよい社会のあり方を探るエキスパート。

知床自然大学院大学は

全国・世界で活躍する！

## ワイルドライフマネジャーを養成します

Q なぜ知床で養成するの？

A 知床は自然保護管理の先進地なのです！

知床は過去の経験、さまざまな研究の蓄積があり、現在進行形で多くの課題に向き合っている地域です。



世界自然遺産  
知床とは…

北海道北東部の斜里町（人口約1万2千人）と羅臼町（人口約6千人）にまたがる知床。海から陸につながる類いまれなる生態系と生物多様性が評価され、2005年にユネスコの世界自然遺産に登録された。漁業、農業、観光業などの産業が盛んであり、住民たちは何かしらの自然の恵みを享受して生活を送っている。

知床では行政、研究者、地域住民が一丸となって、研究や保全対策に取り組んできました。特に2004年に発足した「知床世界自然遺産地域科学委員会」では、さまざまな分野の第一線で活躍する研究者が知床の自然保護管理に助言を行い、現場では知床財團などの現地組織を中心に、実行体制が組まれています。

[これまで知床で展開してきた活動例]

- ◎ 原生の森を守ろうと約40年前に始まった「しつれとこ100平方m運動」
- ◎ えさやり禁止キャンペーンをはじめとするヒグマとの共生のための取り組み
- ◎ 爆発的に増えたエゾシカの科学的個体数調整
- ◎ 漁業と世界遺産の海域保護とのバランスを図る計画の策定
- ◎ 知床五湖の適切な利用ルールを定めるなどエコツーリズムの推進…等

Q どんなことを学ぶの？

A 知床をフィールドに現場のノウハウを学びます！



1

### 野生生物保護管理技術分野

野生動物保護管理総合実習（例えばクマ類のマネジメント）→実際に知床で行われているヒグマの調査、危険防止策、啓発活動などの現場を体験・研究する。



2

### 地域資源保全政策分野

地域資源保全総合演習（例えばエコツーリズムのマネジメント）→実際のエコツーリズムの現場、ルール作り、行政や住民をえたエコツーリズムに関する検討などに参加・体験・研究する。

私たち、野生生物と共に生きる社会を

未来の子どもたちに残せるでしょうか？

時間がかかるても、この分野の人材養成は不可欠です。

全国で必要とされている人材です。